

《古町地区道路空間再構築の方向性（案）》

①基本方針

現状の問題点の改善と古町地区の魅力向上・賑わい強化に向けて、道路の役割分担を明確にし、限られた道路空間を有効に活用する。

《古町地区の将来像》～交通戦略プランより～

■交通まちづくりの方向性：まちの賑わいや都市の活力を創出

- 誰もが快適に移動しやすい交通環境の実現
 - ・公共交通サービスを基軸に、回遊性の高い「歩いて楽しいまちなか」を創造（基幹公共交通軸の形成等）
 - ・歩行者や自転車が安全で快適に移動できる交通環境の創出
 - ・まちのにぎわい・憩いの空間を創出 等

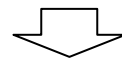
《まちやみちづくりに関する住民意向》

■まちやみちのイメージ

- ・賑わいがあり、安全で安心して暮らせるまちづくり
- ・歩行者・自転車・自動車の共存

■道路空間再構築について重視すべき事項

- ・安全な歩行者・自転車空間（古町地区全体）
- ・賑わいが生まれる空間（中古町）



《道路空間再構築の基本方針》

ア. 道路空間の役割分担の明確化

- ・自動車交通、自転車交通を集約的に処理する骨格機能の確保
- ・基幹公共交通軸としての柂谷小路の機能強化

イ. 各エリアにおける道路空間活用方針

●各エリア共通

- ・歩行者・自転車の安全性向上

●上古町エリア

- ・荷捌き等の路上駐車への対応

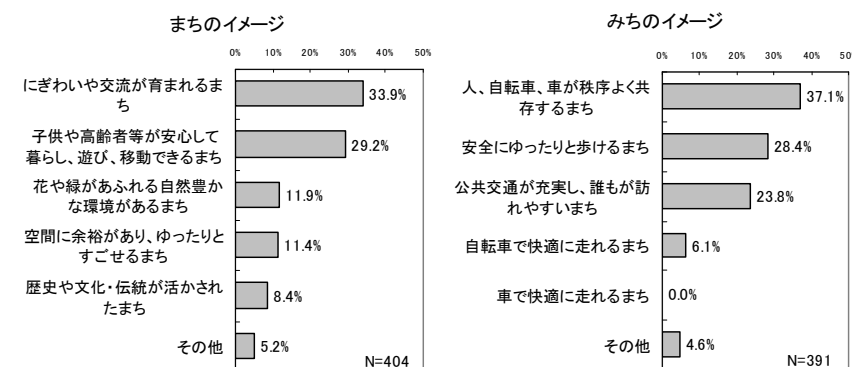
●中古町エリア

- ・利便性の高い公共交通の実現
- ・快適な歩行者の回遊空間の創出、荷捌きやタクシーなどの駐車に对应した道路空間の活用

●下古町エリア

- ・荷捌き等の路上駐車への対応、夜間における客待ちタクシーへの対応

古町地区将来のまちやみちのイメージについて



②骨格機能を担う道路の位置付け

現況の自動車及び歩行者・自転車交通量、将来交通体系における位置づけを踏まえ、骨格機能を担う道路を右図のように位置づける。

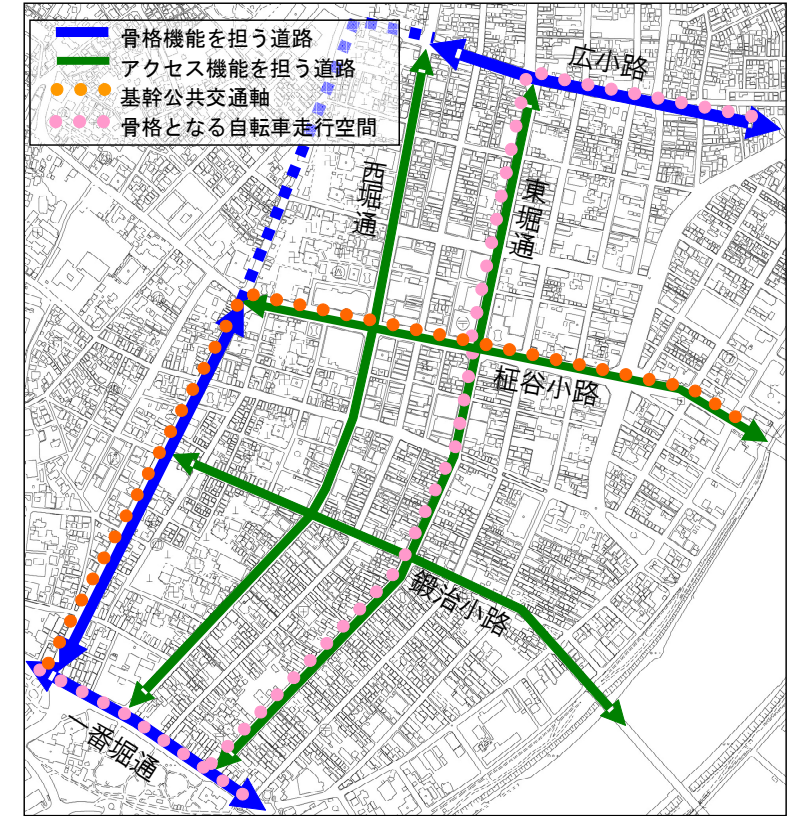
- 柂谷小路を基幹公共交通軸として強化する
- 自転車を集約的に処理する機能を東堀通に位置付ける
- 古町地区を通過する交通やアクセスする交通を万代島ルートに誘導する

※ 将来的に基幹公共交通軸の走行空間機能を担う道路の位置づけも考慮する必要がある

※ 西堀通はより多様な機能確保が望まれることや、西堀通の将来的な位置付けや万代島ルートとのネットワーク化を勘案し、西堀通りと東堀通りの役割分担を図ることとする

③ 今後の方向性と複合社会実験のねらい

快適な歩行者空間の創出による賑わい強化や魅力向上に資する道路空間の活用を第一義とし、以下のように各モードの施策の方向性を位置付けながら、古町地区の道路空間の活用方法を検討する。



施策の方向性

全体

- ・多様な都市活動に対応するため、道路空間の役割分担を明確化
→車道部を活用し、利用ルールの徹底を図りながら、限られた道路空間を有効活用する

●歩行者・自転車

- ・歩行者空間の拡大、自転車・歩行者の分離による歩行者空間の安全性・快適性の向上
- ・骨格となる自転車走行空間の創出による自転車のアクセス利便性の向上
- ・自転車利用のルール浸透による歩行者の安全性、快適性の向上

●バス

- ・自動車交通や、路上駐車による影響を軽減することによるバスの走行性、定時性の向上

●荷捌き

- ・荷捌き位置の明確化、利用ルール化による自動車交通や自転車走行への影響の軽減

●タクシー

- ・タクシー乗り場の配置やタクシー乗り場の利用ルール化によるバスや自動車交通への影響の軽減、利用者の利便性確保

複合社会実験のねらい

- ・車道部の削減による影響の検証
- ・歩行者空間の創出効果の検証
- ・荷捌き場所やタクシー乗り場、自転車空間など都市活動に必要な機能の適切な配置の検証
- ・オープンスペースの使い方の検証
(オープンカフェ等のイベント、ベンチやプランターの設置)

- ・路肩（片側）に自転車走行位置を明示することによる効果の検証
- ・歩道（片側）で歩行者と自転車のソフト分離を行うことによる効果の検証
- ・押しチャリ等自転車走行のルール・マナー向上策を実施することによる効果の検証

- ・バスベイの確保、バス待ち環境の向上による効果の検証

- ・路上、路外での荷捌き貨物車専用スペースの分散配置の効果の検証
(スペースの設置位置は貨物車の駐車状況を参考する)
- ・利用ルール適用による効果・改善点の検証

- ・タクシー乗り場の分散配置による影響の検証
(利用者への広報、情報提供を併せて実施)